



特集 伝統の美から 学ぶ

美術文化への理解を深めることが、
学習指導要項の教科目標として新たに加わり、
美術を通して自国の伝統や文化を理解することが求められています。
本特集では、佐藤真理子先生の「文様をつくる」という、
デザインの授業をご紹介します。生徒たちは、日本の伝統的な文様をどう捉え、
どのようなオリジナルの文様を考えていくのでしょうか。

撮影 鈴木俊介

オリジナルの文様で 手ぬぐいをつくろう！

東京都大田区立
南六郷中学校

佐藤真理子先生 × 1年3組 (生徒数 35 名)

第 1 時

文様を知ろう

「みんなは、この図柄を見たことがありますか」

唐草の文様がプリントされたパネルを掲げて、佐藤先生はそう投げかけた。「知ってる！獅子舞だ」「風呂敷でしょ」「泥棒が持っているやつ！」と、生徒たちは身を乗り出して答える。「そうだね。風呂敷の図柄として目にすることが多いですね。では、この図柄は何をもとに考えられていると思う？」と尋ねると、「雲かな」「風だと思う」「葉っぱじゃないかな」と、さまざまな意見が出された。

「実は、蔓草をイメージしているんです」と先生は答え、その後も青海波の文様や、麻の葉の文様のパネルを示して、同様に生徒へ問いかけていった。

「これらは、『文様』と呼ばれるものです。古くから生活用品や衣服などの身近なものに、飾りとして使われてきた図柄です。文様は、みんなの身の回りにもきっとあるはずだから、家で探してみてね。では、教科書を開いてみましょう」。先生はそう話し、教科書（『美術1』）P32の「文様、飾りの小宇宙」を見せた。そして、文様は日本だけでなく、世界各国にもあることを説明し、今回の授業では、オリジナルの文様をつくることを告げた。



『唐草文』は、蔓草がどんどん伸びて成長することから、長寿や子孫繁栄の願いが込められています」と説明。

その後、自作のプリントを配布し、さらに詳しく文様について説明していく。例えば「青海波文」。波をモチーフにしたこの文様は、波は永遠に繰り返訪れることから、よいことが繰り返されて繁栄するようという願いが込められている。「文様には人々の願いが込められています。みんなにも、自分の願いを込めた文様を考えてもらおうよ。そして、手ぬぐいをつくってもらいます」。そう言いながら、先生は用意してきた手ぬぐいを広げて見せた。そして、手ぬぐいには文様が入ったものが多いことや、その歴史や用途などについても簡単に説明をした。

「オリジナルの文様を考えたら、ゴム板に彫ってスタンプをつくりま



教科書とプリントを見ながら、文様の種類やそれぞれの文様に込められた願いを学ぶ。

いに押していきます。今日はまず、自分の願いを込めた文様のアイデアを練っていきましょう。

「どうしようかな」「うーん、迷うなあ」。生徒たちは、友達と相談しながら、ワークシートにアイデアをかき出していった。

文様のアイデアを練ろう

先生は冒頭で次のように切り出した。「前の時間に、文様はみんなの身の回りにもあるはずだから探してみてねって言いました。早速、Sさんが見つけてきてくれたよ」。そう話し、「麻の葉文」がプリントされたSさんの巾着を見せた。

他の生徒からも「茶道を習っている母の袱紗に文様を見つけた」「うちの座布団に文様があった」と発表があり、昔から伝わる文様が、今でも使われ、親しまれていることを、みんなで確認することができた。

そして、文様のアイデアスケッチに移る。「文様に『どんな願いや思いを込めるか』ということが、いちばん大事です。いきなり図柄をデザインするのではなく、まず自分の願いを言葉で書き出して、そ

れから図柄を考えようね」。先生がそう伝えと、生徒たちは、「部活の試合で勝てますように」「友達がたくさんできすように」など、さまざまな願いをワークシートに書き出し、文様のアイデアを練っていく。

「野球がうまくなりたい」という願いを込めて、野球ボールの文様を描いている生徒に対しては、「ただボールを文様にするのはではなく、もっと自分らしい特徴を入れよう。ボールの周りに自分の願いを表すような模様を入れるなど、工夫できるはずだよ」と、自分の願いを考えながらオリジナリティを出すように伝えた。なかなか願いが思いつかず、文様を考えられない生徒もいる。先生は「成し遂げたいことや、将来の夢をまず言葉で書いてごらん」と一人一人に声をかけ、丁寧に机間指導をしていく。文様が考えられた生徒には、長方形の手ぬぐい



前時で見せた「麻の葉文」のパネルと、Sさんの巾着を並べて見せる。



ワークシートに自分の願いを言葉で書き出し、文様のアイデアを練っていく。

どのように押していくのか、レイアウトについても考えるよう促した。

次時から、いよいよゴム板を彫るなどの実作業に入っていく。

文様を彫って、試し押しをしよう

「みんな、文様のアイデアは固まったかな。今日から、ゴム板を彫って、試し押しをしていきますよ。その前に、手ぬぐいの歴史や用途について確認しましょう」。先生はそう話し、手ぬぐいの説明が書かれたプリントを配布した。手ぬぐいは、江戸時代から庶民に親しまれるようになったこと、庶民が使っている様子が浮世絵にも描かれていること、当時は歌舞伎をモチーフにした文様の手ぬぐいが多く出回り人気を博したことなどを伝えた。また、手ぬぐいの包み方や頭への巻き方なども、実演を交えて説明していった。

そして、作業の説明に移る。手順は、おおまかに次の通りだ。

- ①ワークシートに描いた文様を、トレーシングペーパーに写す。
- ②トレーシングペーパーをゴム板に当て、転写する。
- ③彫刻刀でゴム板を彫る。
- ④ゴム板にインクを付け、布切れに試し押しをする。



作業工程や手ぬぐいの見本などを、板書でわかりやすく示した。

⑤試し押しを見て、彫り足りないところを彫るなどして、調整する。

⑥本番の手ぬぐいへ押す。

生徒たちは、すでに木版画を制作したことがあるため、比較的スムーズに、彫りの作業を進めていた。

彫りが終わり、試し押しに入ると、教室は一気ににぎやかになる。「インクはギュッと押し付けるのではなく、軽くポンポンとたたき感じで付けるときれいに色が付くよ」。生徒たちは指示どおりに、ゴム板にいろいろな色のインクを付け、布切れに押ししていく。「どの色がいいかな」「赤やピンクだけでなく、ブルー系も入れたらどう?」「ここ、もう少し彫ったほうがきれに見えるよ」……試

し押しを見せ合いながら、生徒どうしで相談し合う様子も見られる。

進度の早い生徒は、試し押しが終わり、本番に入ろうとしている。手ぬぐいは、34×90cmと大きいので、緊張して押すのをためらう生徒も。先生は、手ぬぐいと同じ大きさの細長い模造紙を用意し、「例えば、まっすぐに文様を押ししていきたい人は、この紙に直線を引いて、それを手ぬぐいの下に敷きましょう。そうすると、直線が透けて見えるから、それを頼りに押していくと失敗しないよ」。生徒が本番の手ぬぐいでも、きれいに押していけるよう、きめ細かな配慮も忘れない。

次時では、手ぬぐいを仕上げ、自分の作品について発表をする。

授業展開
(全6時間)
生徒の活動

第1時

導入

- 文様や手ぬぐいについて知り、作品制作のイメージをもつ。

第2時

構想を練る

- 自分の願いを考えながら、文様や手ぬぐいの柄をワークシートにかき、構想を練る。

第3.4.5時

制作

- 形や配色を考えながら、ゴム板を彫り、試し押しをする。
- 手ぬぐいに効果的な配置で文様を押す。

第6時

発表・鑑賞

- 自分の制作した作品を紹介する。
- 友達の作品を鑑賞し、そのよさを味わう。

特集



伝統の美から学ぶ

指導計画

準備するもの

生徒 教科書、筆記具

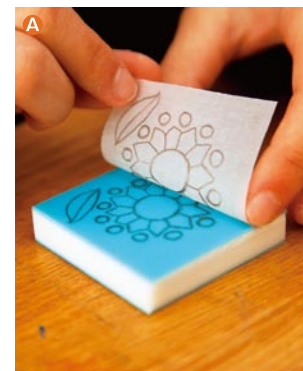
教師 文様のパネル、手ぬぐい（文様の入った市販のもの）、プリント（文様の説明資料）、ワークシート、トレーシングペーパー、さらし布、ゴム板（5cm角）、布用インク（8色）、試し押し用の布切れ、彫刻刀、模造紙

学習目標

- 日本の伝統的な文様のよさに気づき、自分の思いを込めて、新たな文様を制作することができる。
- 自分の考えた文様を使って、工夫して構成を考え、手ぬぐいの柄を制作することができる。

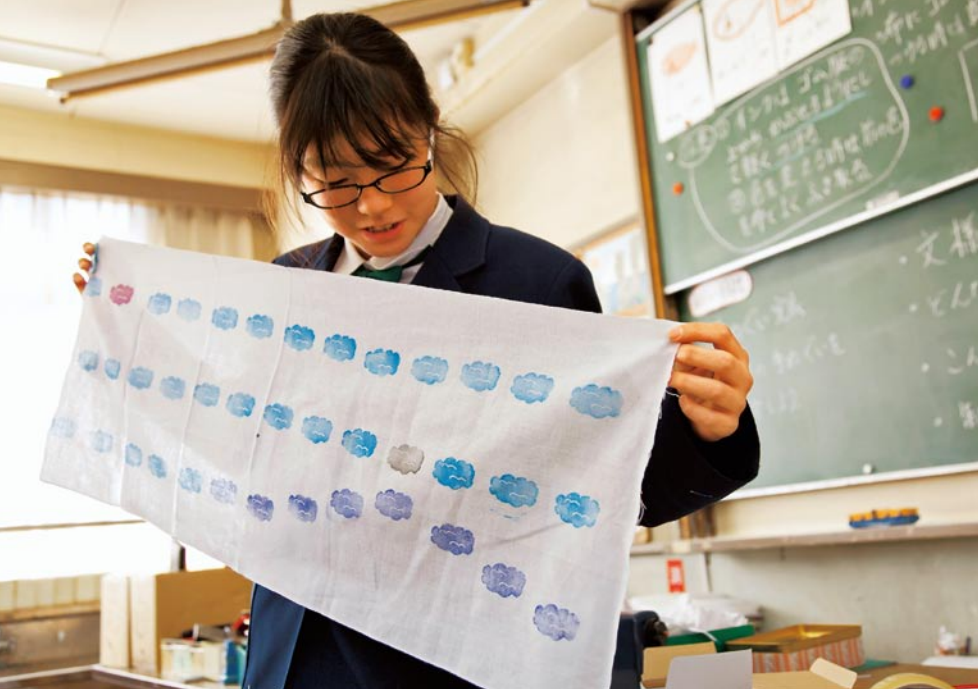
評価規準

- 文様や手ぬぐいという日本の伝統文化に興味をもち、作品制作に取り組もうとしている。（美術への関心・意欲・態度）
- 自分の願いや思いを、工夫して形に表現している。（発想や構想の能力）
- 長方形である手ぬぐいの特徴を生かして、文様を効果的な配置で構成している。（発想や構想の能力）
- ゴム板を美しく彫り、形を生かしながら配色を工夫して、手ぬぐいの柄を制作している。（創造的な技能）
- 友達の発表を聞いて、作品のよさや思いを理解している。（鑑賞の能力）



④トレーシングペーパーを使って、文様をゴム板に転写。⑤5cm角のゴム板に文様を彫っていく。⑥彫りの具合を、友達と確認し合う。⑦試し押しをして、どの色を使うか決める。⑧試し押しを見ながら、彫り足りないところを削る。





第 6 時

手ぬぐいを仕上げて、 発表しよう

「いよいよ手ぬぐいを仕上げて、自分の作品について発表をしてもらいます」。先生はそう話し、ワークシートを2枚配布した。1枚は、「文様名」「文様にどんな願いや思いを込めたか」「どんなふうに使ってみたいか」……など、発表する項目が書かれた発表原稿となるシート。もう1枚は、「友達の作品、いいところ発見!」と題した、発表を聞いて友達の作品のよいところをメモするシート。手ぬぐいが仕上がった生徒は、続々と発表原稿となるワークシートに記入を進めている。

そして、いよいよ発表の時間。一人ずつ前へ出て、手ぬぐいを胸の前で大きく広げ、発表していく。

Kさん(写真上)の文様名は「雲文」。

に目標に向かっていけるように、という願いを込めました。ところどころに黒や赤の雲がありますが、これはスランプを表しています。もしスランプがあっても、変わらず進んでいけるようにという願いを表しています。そして、雲を全てまっすぐに押すのではなく、途中でカーブをつけて押しました。これは、たまには寄り道してもいいよという意味です。文様自体は、雲をかたどったとてもシンプルなものだ。しかし、Kさんは押し方に工夫を凝らして、自分の思いを見事に表現した。他の生徒からは「へえー!」「なるほど」など、感嘆の声が漏れた。

いっぽう、野球部のT君の発表は、教室に笑いを巻き起こした。T君は、当初なかなか文様のアイデアがまとまらず、制作が難航していた生徒だ。しかし、先生と相談しながら「野球上達文」という、星と野球のボールを組み合わせた文様を考えました。

「野球がうまくなりますようにという願いを込めて、野球のボールを星の形で囲んだ文様を考えました。星は僕の『希望』を表しています!」。元気なT君はそう言いながら、手ぬぐいをかぶって見せた。「さす



右/友達の発表を聞いて、よいところをワークシートにメモしていく。
左/Kさんは、「自分の願いを考えながら文様を押ししました」と発表。

が!」「いいね～」などと、どっと笑いが起き、教室が盛り上がる。

発表を聞いた生徒たちのメモを見つめると……

* * *

Kさんの発表を聞いて

- 文様の押し方に自分の思いが表れていて、いいなあと思いました。
- 雲が曲がって押してあるのはなぜだろうと思っていましたが、願いが込められていたんだと知って、さすがだなと思いました。

T君の発表を聞いて

- 星に「希望」という意味が込められていて、驚きました。
- 手ぬぐいが似合っていました! 文様の色もカラフルでいいです。

* * *

多くの生徒が友達のよいところを見つめながら、発表を聞くことができていたようだ。

「みんな、自分の願いや思いを込めた文様を考え、すてきな手ぬぐいをつくることができました。でも、つくって終わりではありません。これから、ぜひ実際に使ってみてくださいね」。先生はそう話し、笑顔で授業を締めくくった。

発表の後、手ぬぐいをかぶるT君。「ほおかぶり」「現代かぶり」を披露。



文様に願いを込めて

「どんな願いを込めるかが、いちばん大事」。先生にそう言われた生徒たちは、文様にどのような願いを込め、手ぬぐいを制作していったのでしょうか。

Hさん リズム文



ダンスを習っていて
元気いっぱいのHさん。

音楽を
ちゃんと聴いて、
リズムに乗って
ダンスができます
ように。



最初は音符が一つだけの文様だったが、先生から「音符がいくつもあったほうが『リズム感』が出るのでは」とアドバイスを受ける。



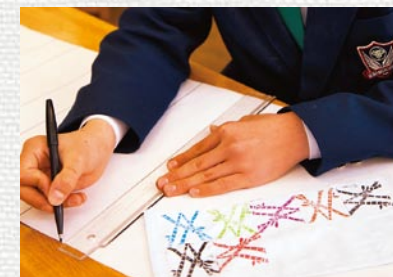
楽しい音楽が聞こえてきそうな手ぬぐいが完成。「あえて余白を残しました。そのほうがバランスがよく、かわいいと思ったから」。

N君 元竹文



いつも作品づくりに
一生懸命取り組むN君。

竹のように高く、
すくすくと元気に
成長して
いけますように。



試し押しを見て「竹に見えるかなあ」と不安に。竹をイメージして直線で押していくことに決めた。模造紙に線を引いて、手ぬぐいの下に敷く。



竹のようにすくすくと成長していきたいという願いを込めて、まっすぐに美しく押すことができた。仕上がりを見て大満足。

Y君 VICTORY文



サッカー部のY君。
細かい作業が得意。

サッカーが
うまくなって、
試合で必ず
勝てますように。



初めはサッカーボールのみの文様だったが、「勝ちたい」という願いを込めて、ボールの中に「VICTORY」のVを入れることにした。



ゴールネットのように、すき間なく丁寧に文様を押していく。Y君の手ぬぐいが完成したときには、周囲から大きな拍手が起こった。

特集
伝統の美から
学ぶ

願いよ、届け！



Nさん
「チョウチョ文」
「チョウのように高く羽ばたいていきますように」。中心に向かってチョウが羽ばたくように配置した。

W君
「部活がんばろう文」
「サッカー部での活動がんばれますように」。ボールの中に「FIGHT」の文字を入れた文様。



Aさん
「どらくしょう 努楽生文」
「努力しながら、楽しく生きていきますように」。抽象的なイメージを組み合わせ文様をつくった。



S君
「かの 亀文」
「健康で長生きできますように」。地道に進む亀と自分を重ね、少しずつ角度や色を変えて押した。

授業では、生徒のつくった手ぬぐいで、果物、瓶、本などを実際に包んだ。

特集
伝統の美から学ぶ



授業を終えて ——日本の伝統と文化の奥深さを感じてほしい

今回は、オリジナルの文様を押して、手ぬぐいをつくりました。文様を考えるだけでなく、手ぬぐいに押して、それを実際に使ってみることで、より文様に親しんでほしいと考えたからです。手ぬぐいに文様をどう配置するかも、子どもたちの願いや思いが伝わってきたので、おもしろかったですね。また、子どもたちが本番の手ぬぐいに押すときの緊張感も、とてもよかったと思います。

日本の伝統的な文様は、実に多種多様で、人々のさまざまな願いが込められているので、非常に奥が深く、教えがいろいろあります。時間が許せば、もっといろいろな文様を子どもたちに紹介してみたかった。これから学年が上がるごとに、「こんな文様もあるよ」と、子どもたちに教えていければと思っています。それから、夏休みなどを利用して、身近にある文様をもっと探させてみたいですね。



佐藤真理子
さとう・まりこ
長野県生まれ。
大田区立南六郷中学校学年主任。
女子美術大学芸術学部絵画科卒業。
1992年、東京都教育研究員として「遊びの要素を取り入れた授業の工夫」と題し、研究発表を行う。
98年には東京都立教育研究所の研究生として、論文「日本の伝統的な色彩のよさや美しさを味わい、表現に生かすことができる指導内容・方法の開発」を発表。

今後も折に触れ、日本の伝統と文化の奥深さを感じることでできる授業をしていきたいと思っています。(談)



光村図書中学校『美術』の著作者である上野行一先生に、今回の授業を参観していただきました。

授業を参観して



上野行一
うえの・こういち
大阪府生まれ。
帝京科学大学教授。
大阪教育大学大学院修了。
広告デザイナー、公立学校教諭、高知大学教育学部教授を経て2010年より現職。
著書に『まなざしの共有』（監修・淡交社）、『私の中の自由な美術』（光村図書）など。
光村図書中学校・高等学校『美術』の著作者。

伝統と文化を 尊重する態度を育てる 〈学びのしかけ〉

伝統と文化を尊重する態度の育成は、教育基本法において新たに規定された教育の目標です。それを受けた今回の学習指導要領の改訂では、美術文化についての理解を深めることが教科の目標に加えられました。

佐藤先生の授業では、文様の学習を通して伝統と文化についての理解を深め、尊重する態度を養うことがねらいです。しかし、単に文様をデザインさせたり、文様についての知識を覚えさせたりするだけでは、理解は深まっても伝統と文化を尊重する態度の育成には不十分です。授業の中で生徒が主体的に文様についての情報を収集し、分析して活用する意図的な〈学びのしかけ〉を設定する必要があります。

では、佐藤先生はどのような〈学びのしかけ〉をしたのでしょうか。

授業の導入段階で、佐藤先生は教科書と自作のプリントを使い、文様には人々の願いや思いが込められていることを説明します。次に、文様は今も生活の中で使われており、身近なものから見つけようと伝えます。そして生徒たちに、「どのような願いや思いを込めるかがいちばん大事」と告げ、単に図柄を工夫するだけの表面的なデザインに陥らないように戒めました。

いきなり図柄を考え始めてしまうのは文様の授業に限ったことではありません。デザインの授業ではありがちなことです。しかしこの授業で

は、「願いや思いを形に込める」という文様の伝統と文化について学ぶことが重要なポイントですから、美しい図柄を考える活動が柱になっては学習のねらいが達成されません。

そこで佐藤先生は、授業の過程に「文様は今もどのように使われているか」「自分の願いや思いをどのような形にするか」「実際に使う手ぬぐいをつくる」という〈学びのしかけ〉を設定しました。

「文様は今もどのように使われているか」

生徒たちは、文様が生活小物などに使われていることを発見するとともに、それが図柄としての使用だけではなく、意味のあるものとして使われていることに気づきます。佐藤先生は、生徒に文様について関心をもたせるだけでなく、主体的に文様についての情報を収集し、伝統が現代に継承されていることに気づかせようとしたのです。

「自分の願いや思いをどのような形にするか」「実際に使う手ぬぐいをつくる」

自分の願いや思いを込めたオリジナルの文様と、それを使った手ぬぐいをつくること。これは収集した情報を分析して活用する活動に当たります。しかも、文様のデザインにとどまらず、実際に使える手ぬぐいをつくり、それを使う活動を通して、生徒たちは生活の中での文様の働きや意味を実感することでしょう。

このような〈学びのしかけ〉が生み出す一連の活動によって、伝統と文化を尊重する態度を育成するという学習のねらいは達成されるのです。